功績調査部長殿

七六二空機密第二八號

昭和十九年十一月二十日

十一月十日 発信

# 臺灣東方海上敵機動部隊夜間雷撃戰訓並所見

攻撃七〇八飛行隊戰闘詳報
第八號乃至第十三號別冊

第七六二海軍航空隊攻撃第七〇八飛行隊

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

# 戰訓並所見

## 第一　一式陸攻関係

（攻惠隊　直協隊　一三偵察隊）

一　展解基地ノ選定ニ就テ

(イ) 特ニ大型機ハ急速移動集中ニ基地発着作業鈍重ニシテ費消時極メテ大ナル為敵ノ空襲等ニ対シテハ最小限一時間ノ余裕アルニ非ザレバ攻惠（避退）ノ発進ハ不可能ナリ

(ロ) 大型機ノ使用可能ナル飛行場ト雖モ過荷重離陸等ニ制限ヲ受クルモノ多シ

(ハ) 固有基地ヨリ他基地（急速転進ノ場合整備能力ノ低下、攻惠準備所要時間ノ増加等小型機以上ニ影響ヲ蒙ル事大ナリ

以上ノ点ヨリ被空襲ノ算大ナル基地ヲ主用シテ今次ノ如キ作戦ヲ遂行シタリトセバ其ノ賞動機数ノ減少ノタメ所期ノ作戦遂行不可能ナリシト認ム

十日未明鹿屋基地空襲ノ算大ナリト判断各攻惠隊ハ夫々避退（攻惠準備完成）ヲ命ゼラレタルトコロ日出二時間前ヨリ行動ヲ開始シ午前一杯ヲ要スルモ所要ノ兵力移動ヲ完了シ得ズ翌十一日之ガ復帰ニ際シテ又然リ　搭乗員ノ練度飛行機ノ整備状況トモ関聯大型機ノ超過荷重発着作業ノ如

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

何ニ慎重ヲ要シ且困難サルカヲ如実ニ説明セルモノナリ

十二日ノ攻撃ハ急遽沖縄方面ニ転進シテ実施スル如ク命令アリタルモ同方面空襲中ノ報ニ依リ取止メ淹屋基地ヲ主用スル結果基地通信施設ノ有利ト相俟ツテ攻撃隊ノ攻撃準備並ニ発進作業極メテ余裕ヲ以テ順調ニ行ハレ連日ノ猛訓練後ノ整備不充分ノ機材ヲ以テ最悪ノ條件ハモトニ立上リタルニモ拘ラズ十二、十三、十四ノ三日間ニ於テ保有機数ノ殆ンド全機ヲ使用シ実動機数増加上利スル處極メテ大ナルモノアリタリ

二 觸接照明並ニ雷撃法

(イ) 觸接

一式陸攻ヲ以テスル触接ハ夜間以外ハ絶対不可能ナリ

触接行動中ハ敵夜戦ノ回避等ノ為不軌ナル運動ヲナスヲ以テ航法実施困難ナレバ帰投ニ際シテハ夜間天測ヲ絶対必要トシ又各基地ハ無線帰投ニ対スル萬全ノ準備アルヲ要ス

(ロ) 直協隊ト攻撃隊トノ間隔

直協隊ノ敵発見電波誘導攻撃隊ノ敵発見ハ関聯動作ニ於テ通信比較的計画通リ実施セラレタル場合ニ於テモ今次ノ如ク比較的至近ノ巨離ニ数群ヨリ成ル機動部隊ニ対シ直協隊内ノ各機ハ各異レル目標ニ触接誘導ニ努ムル為誘導モ照明モ共ニ計画ノ如ク実施シ得ザリシ事アリ

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

直協隊ハ索敵機ノ確保セル敵ニ集團進出シ攻撃隊ノ誘導並ニ照明ノ協同動作ヲ失セザル樣ニスルト共ニ攻撃隊ハ其ノ直後ヲ進出シ時隔大ナラザルヲ有利トス

数群ノ敵散在海面ニ於テ直協隊ハ攻撃隊ノ一時間乃至二時間前ヨリ之ニ触接ヲ確保シ其ノ全貌ヲ領知然モ各機ノ協同連繫ヲ失ハザル樣攻撃隊ヲ誘導シテ照明ヲ開始スル事ハ敵夜戦ノ跳梁ト悪天候狡視界等ノ各種條件ノ下ニ於テ極メテ困難ナリ直協隊ハ攻撃隊ノ直前ニ在リテ進撃敵発見ト同時ニ前進照明開始之ニ策應シテ攻撃隊ハ直チニ突撃ニ移転スルヲ有利ト認ム

(ハ) 車懸ノ戰法

夜間雷撃法ノ一戰法トシテ確立シテ差支ナキ方法ト認ムルモ用法ニ關シ左記考慮ノ要アリ

(1) 目標ハ一群毎ニ錯綜ノ虞ナキ事

(2) 所謂車懸ノ円運動可能ノ程度ノ範囲ニアル事

(3) 照明隊ト攻撃隊トハ進撃時隔過大ナラザル事

(二) 薄暮雷撃

暗夜ノ照明雷撃ノ成否ハ天候ニ支配サルル事大ニシテ雲量多ク雲高低キ場合ニ於テハ速ニ黄昏雷撃ヲ企図スベキナリ

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

敵機動部隊ハ薄暮以後其ノ航空機ノ威力発揮困難トナル時機ニ於テハ極力我攻撃圏避ノ為努メテ「スコール」等悪天候ノ下ヲ選ビテ行動スルヲ以テ雷撃時機ヲ薄暮ニ選定スル事ハ雷撃法ノ現状ニ於テハ最モ戦果発揮上有利且確実ナル手段ナリ

然レ共薄暮時ノ好機ニ投ズル事ハ一ニ指揮官ノ適切ナル判断ト攻撃隊ノ誘導ノ如何ニアリ転瞬ノ間ニ好機ヲ失スル虞アルヲ以テ必ズ照明雷撃ニ転換シ得ル準備アルヲ要ス

(ホ)

照明雷撃法

(1) 従来ノ戦訓ニ徴スルモ高々度直上照明可能ナル如キ好天候ハ稀ナリ 照明利用ノ見地ヨリ断雲ト雖モ雲下ニテ照明スルトセバ低高度トナリ照明隊ノ行動自ラ非実戦的トナルヲ免レズ実施ニ大ナル困難ヲ伴フ場合多シ 低高度ノ背影照明雷撃法ヲ速ニ研究確立スル要アリ

(2) 今次航空戦ニ於テハ十二日十三日共大部分ハ薄暮時敵ニ取付キタル関係上敵ヨリ六〇浬附近ニテ既ニ敵戦斗機ノ妨害大ナリシト直協隊ハ単独行動セル為取付ク公算小ナリシ為照明隊トシテノ協同連繋ウマク行カズ照明雷撃ハ失敗ニ終レリ

(3) 敵ノ輪型陣大ニシテ照明下ニ敵ヲ見ル事困難ナリ

今次戦斗ニ於テモ照明ヲ利用セルハ殆ンドナク敵ノ防禦砲火等ニテ敵ヲ確

認雷害セル例多シ

直協隊ニ代ルニ高性能ノ銀河等ニテ敵位置（概位ニテ可）標示ノ爲吊光投彈等ヲ投下セシメ雷害ソノモノハ無照明電探主用ノ雷害ヲ有利ト認ム

(4) 今回ハ敵発見ト共ニ突入シ順害ノ形式ヲ執リタル爲被害大ナリシナラン沈着ニ行動シ隨意方向ヨリ同時ニ突込ム必要アリ

三 電探

(イ) 極メテ有効ナルヲ体驗セリ特ニ闇夜ノ敵発見以外ニ夜間航法ニ利用ノ途多シ

(ロ) 長時間ニ亘リ使用セザル事

(ハ) 敵ハ僞電波ヲ出スモノノ如シソノ情況下ハ如シ（上記ノ如キ反射波現ルルモ不安定ニシテ陰顯ス）

(ニ) 敵上空ニテ急激ナル運動中ハ必ズ電探ハ作動ヲ停止スベシ然ラザレバ必ズ故障ス（廻転ノ変動ニ依ル電圧変化ノ爲カ？）

(ホ) 電探欺瞞用紙ハ相當遠距離（五〇浬）ヨリ使用開始スルヲ有効ト認ム

(ヘ) 夜間敵戦闘機トノ交戰時電探送信機ニ裝備セル眞空管ノ光機外ニ洩レ不利ナリ送信機ヲ完全ニ密閉シ強制通風トスベキナリ

(ト) 電探員ハ眼ノ疲労激シク居眠スル者多シ紫外線除眼鏡等ノ対策ヲ要ス

四 通信

(イ) 電信員ハ闇中ノ暗号作製翻訳送受信訓練ノ必要アリ

(ロ) 電信機ヲ前方ニ移セルハ便利ナルモ燈火管制出来ズ夜戦闘機トノ交戰時不利



国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

ナリ 常制用黒幕ヲ必要トス

(ハ) 中波切換ノ時機ハ戰場到達ノ前後比較的閑散ナル時行フ要アリト思考ス
(今回ハ電波転換時機ヲ漫然ト六時トセル爲敵発見攻撃直前ニ當リ苦慮隊攻撃隊間ノ連絡ニ多大ナル困難ヲ感ゼリ)

五 其他

(イ) 敵戰斗機トノ交戰ハ超低高度ヲ有利トシ左右ノ避彈運動ヨリモ上下ノ波狀運動極メテ有効ナリ

(ロ) 見張ハ前方ノミナラズ後方及上方ニ対スルモノ亦重要ナリ敵戰斗機ハ殆ド後上方ヨリノ奇襲ヲ行ヒタリ

敵戰斗機

(ハ) 搭整員ハ燃料「タンク」系統ヲ充分研究シ例ヘバ五番「タンク」ヲ射抜カレタル時ハ燃料ヲ直チニ一、二番ニ移ス等平生ヨリ訓練ノ必要アリ

第二 銀河関係(一四偵察隊)

一、銀河ハ薄暮乃至夜間触接機トシテ不適當ナリ

理由 (イ) 偵察席視界狭少カツ曲面「ガラス」風防ナルヲ以テ視認狀況

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

極メテ不良ナルハ觸接機トシテ致命的痛手ナリ

(ロ) 偵察員ハ偵察ニ際シテハ機首ニ占位シ見張航法並ニV機ノ誘導ヲ実施スルノ外ナキ所計器板座席灯ノ位置不良傳声管ノ長サ不充分且聞エ不良等ノ爲之ガ実施極メテ困難ナリ

(ハ) V機ノ形態ヤヽ大ナル爲軽快ナル行動トレズ

之ガ對策トシテ彩雲ヲ以テ代フルヲ可ト認ム

三 銀河ノ装備銃ハ現用二〇粍銃ニテハ視界不良トナルノミナラズ機銃取扱操作困難ニシテ一三粍程度ノモノニ至急替フル要アリ

(終)

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp